

恵みと真理のニュース



2015年3月の三次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

主の中で生きる喜びが溢れ礼拝をささげる時に御言葉で

新しく導いてくださる神様の恵みに感謝します

私は信仰が篤実で聖歌隊で熱心に奉仕する親の元で多くの愛を受けながら育ちました。私も子供の頃教会学校で先生達と教役者に多くの関心と愛を受けながら聖歌隊で奉仕しました。主日の午後ずっと聖歌隊で奉仕する親を待ちながら教会で楽しく遊んだ記憶があります。母は毎晩私のため祈ってください、父は良く聖書の話をして誕生日とクリスマス特別な日には私に絵の聖書とタルムードなどの本を買ってくださいました。ところが私が中学生になり思春期が来て教会に行く事が面倒になりました。親の勧めで教会に行きましたが一番最後に参席して居眠りしながら説教を聴きまるで礼拝が終わる前一番早く抜け出しました。当時、私にピアノを教えてくださいました。聖歌隊の指揮者の先生に“説教の時間がつまらないですか？ときいたと思います。その時に先生は“牧師の説教がとても恵まれ楽しくて楽しみだ”言われました。私はそんな先生の事がとてもおかしいと思いました。しかし、私が神様を知らなくて信じなかったその時でも私も知らずに神霊にある神様の御言葉が私の心の中で働いているのではないかと今日も確信します。

キリストを人格的に会う前、全ての関心は名誉、学閥、富のような世俗的な価値があってもっぱらこの地でよく食べてお金持ちになることが楽しむことだと思いました。高い学閥に対する憧れで中学校の時には外国語高校の入試を準備しました。当時には願っていたがこうで入学する実力と成績が神様の摂理で国内の最高の名門学校で認定された学校に入学する事が出来ました。しかし、神霊な知識と信仰が足りなかった私はそれが私の能力と苦勞で得たのだと思い名門大学どこにも行けると思いました。しかし、学校を卒業をする時に神様には私の夢と目標とは違う大学で私を導きました。その時には神様の全能なる事を知らなくて私はとても失望して落胆しました。大学に入学した後にも主と人格的に会う体験をする前に私に時間が必要でした。大学に行っても満たされない心の空しさや悲しみを青年に心を奪うお酒や友達、恋愛などで慰められるとしました。しかし、いつも戻ってくるのは大きい傷と寂しさで空しさでした。私はまた哲学、人文科学の上に他の宗教まで関心を持って“人間はなぜ辛い？どうやって生きるべきか？”など悩んで多くの時間を過ごしました。人文学の授業を受けて聖書を理性的に批判する努力もしました。狭い認識と過去の経験の中で聖書を理解する知的高慢に落ちました。それで聖書の御言葉を全て信じなかったです。

そのように長い間交際がなくて神様に不従順な心を持った私に井戸かわのサマリアの女のようにただ神様だけが御言葉を解決して下さる永遠な渇きでした。毎日生きる事が大変で寂しかったそのころ私の席で学校の友達が置いてあった聖書を開いてみました。その時、聖書の働きで読んだ詩篇の祈りが私の心をまるで話しているようでした。一枚つづ聖書を読みあいだ恵みと感動が私の心に入りました。私はたまた一人で御言葉を読み黙想し始めました。そしてどんな感動も

なく10年間、感動もなく通った教会をこれからは礼拝を待ち望み御言葉を切に愛しながら行くようになりました。今まで親の手に導かれ無理やり聖歌隊で奉仕して心に感動がなく歌った賛美の歌詞が聞き目から涙をながして、いつも居眠りした説教が心が痛くなるほど入り私の神の言葉は生きており、力を発揮し、どんな両刃の剣よりも鋭く、精神と霊、関節と骨髄とを切り離すほどに刺し通して、心の思いや考えを見分けることができるからです。

主が清い熱心を下され他の青年達より遅く青年部に入り共に交際して教会を仕え始めました。先輩と同期と後輩達が私を向かってくれました。青年達と主の中で交わりキリストの愛を新しく知ることでも嬉しかったです。イエス様が下さった十字架の愛とその犠牲を話して証視ながら涙を流す先輩の姿に衝撃を受けました。今まで主の十字架の贖いの恵みは知識で知りましたが心に深く感じませんでした。主が下さる恵みと愛に満たされ行きて感謝と感激しながら生きる事を願いました。教会のキャンプで参席して見ることがと聖霊で充滿になることを祈りました。神様は説教を聴くうちに祈りと交わるなかですこづつ主の愛を知るように悟らせてくださいました。

その家庭で神様と聖書を論理的に縛るし以前の私の間違った努力と苦勞を捨て壊しました。創造主であり救い主である神様、生きておられる神様、今日もおっしゃる神様を強く信頼するようになりました。神様が生きておられる事に対する証拠が“理性と知識を超えキリストイエスを信じた私の信仰“だと言われた当會長牧師の説教が心に入りました。恵みでした。神様は自己中心で心に主に對する愛と人々に対する愛がなかった私に熱く真実な愛のこころを与えて下さり。全ての人生を変えてくださいました。

2012年から中等部1部の聖歌隊の教師で奉仕して学生達と交際して共に祈り教会を仕えながら私の信仰が驚くほど成長する恵みを受けました。純粋で愛する子供達が学業と世の中で苦しんだ心と姿は主を知らない前になでも満たされない彷徨で痛かった私の子供の頃が思い出しました。子供達のため涙で祈り、時間を出して子供達と交わって恵みある賛美のため献身するその時間が私に一番やりがいになり幸せな時間になりました。感謝する事は神様の愛を教え仕えたため行った教会学校で私は大きく驚くほどの神様の愛と恵みを知りまた体験するようになりました。変化が不可能に見えた子供達がキリストの愛で人生が変り成長すること見ることが神様の私に与えた恵みです。愛する子供達をみながら“私はこの子供達がきれいで愛らしいのに神様はとも愛しているだろうかと思いました。言葉を聴かない子供達を見ながら“私が長い間我慢するのがこんなに大変なのに、神様は私をいくら待ったのかを考えて愛するようになりました。私の心に神霊な喜びが溢れました。私の人生を導く神様の計画のとおりになることを悟りました。

これからビジョンに対する悩みが出来ました。学業に熱望で大学院に進学した私に心と夢を世の価値から全てイエス様に返るため熱心に祈りました。キリストの栄光のためビジョ

ンと目標を経るのに、長い間、世の欲望と価値について生きて来たので新しくビジョンを建てるため時間と祈りが必要でした。神様は多様な方法で摂理して下さり学業のビジョンをキリストの栄光を現れるように祈りをさせました。私は選択の道で當會長牧師の祈りと導きを得るため手紙を書いて牧師に送りました。牧師は私を呼んでくださり私に恵みある御言葉を与え祈ってくださいました。そして、私の夢と目標を全て下ろして神様が下さるビジョンで導かれ仕えることを祈るようになりました。當會長牧師が祝福盛會を導くためパンギョ聖殿の聖歌隊員が練習の中でも牧師に祈りを受けることがとても楽しむことになりました。いくら大きい問題があっても大変な難しい決定を下す時にも牧師の御言葉を聴いて牧師に祈りを受けると全ての悩みがなくなり心に神霊な平安と大胆になります。そして前道が開く事を経験します。神様は今も私が祈ったよりもっと大きく答えてくださり全てのことを協力して助けてくださいます。感謝する事は長く祈ったものが神様の恵みの中で実られる事を見ました。そして今年2月に大学院で経済学と修士過程を首席で卒業をしました。卒業式で学生の代表で学位を受けて神様に栄光を捧げました。そして海外留学のため願書を提出した大学の中で二つの大学で合格しました。神様に栄光を捧げます。

中等部の教師として主日事に奉仕するため体力をなくして難しい学業と奉仕をするのが負担になる時が多かったです。数年前、親が地方に行って仕方なく学校の前でシンチョンにある部屋を借りて生活しながら毎週土曜日と主日に休まずにソウルからパンギョまで行く体力と時間的にやさしくなりました。しかし、神様はそんな私を哀れんでくださり新しい力を下さり礼拝がない日ももっと知恵を持って勉強するように導いてくださり熱心に奉仕して学業にも勝利するように導いてくださいました。そして今年1月金曜祈り会で妹のいげんの賜物を受けました。親が地方に行ってから長女として熱心に見守る責任があつてついでに妹が聖霊で満たされ熱心に信仰生活を相変わらず聖歌隊で奉仕するのが一番の祈り課題でした。ところが私の期待より早く答えてくださいました。それで嬉しくて感謝しました。それだけで自分が願った大学に編入学に合格しました。神様に感謝しながら栄光捧げる妹の姿を見て真実な神様を賛美しました。

私は最近毎日、御言葉がその自体が恵みであり能力である事を悟ります。今まで良く理解出来なかった御言葉が聴けば聞くほど悟られ世の何よりも換えられない喜びになり、御言葉の恵みと能力をもっと愛するようになりました。今私が切に祈るのは私の心が神様の前でいつも謙遜で一生知っても足りないその恵みを毎日新しく悟ることです。そして、主の栄光がこの地に満たされるその日を愛し特に中等部の学生達と同じ神様が与えた姿で用いられるまで忠誠してその日に主から“忠実な良い僕だ。よくやった”という褒められる事です。そうなる事を信じて感謝し全ての栄光を神様に捧げます。ハレルヤ!



【信仰コラム】

罪人を審判する神様

“...、そこで、パウロが、正義、節制、未来の審判などについて論じていると、ペリクスは不安を感じてきて、言った、「きょうはこれで帰るがよい。また、よい機会を得たら、呼び出すことにする」。...”(使徒言行録 24:24-27)

人は誰でも救援を受けなければなりません。聖書がお話する『救援という罪からの救援を意味します。また、審判からの救援を意味します。罪に対する審判は必ずあるものであり、その誰も避けられません。聖書には救援の真理と同時に審判の真実の内容が記録されています。救援と審判はコインの裏表と一緒に不可分の関係を持っています。私たちが救援の恩と真理について知っているだけに、審判の確実な内容についても知る必要があります。違つて、話して救いの消息を伝播するためには罪によっている審判の消息を伝えなければなりません。

第一に、聖書に啓示された神様は審判する神様です。神様は審判することをなさることに合致しています。絶対主権者です。知恵が無制限です。義を貫いています。愛です。権能が無制限です。したがって、神様の審判は公平で義理がたく、また、誰でも避けられなくなり、やり遂げることはできません。聖書には神が審判した過去のことが記録されています。神様の審判が個人や集団や国と民族の上に常に存在してきており、今も継続して取り組んでいます。全ての審判たち

の中で最も致命的だったのはアダムの不順従によってきた人類を襲った罪定めと死亡の審判です。

第二に、神様の審判とは、この世の中に限定されたのではなく、すべての罪人を審判する最後の審判です。アダムから現在まで人間の歴史のなかで臨んだ神様の審判は、究極的審判の最後の審判の予備段階です。終末論的な審判は、イエス・キリストの再臨後に行われこととなります。神様が自らこの最後の審判についておっしゃいました。(マタイによる福音書 25:31-33、41、46)、そして千年王国最後にいることになる‘大きくて白い補佐の審判’についてヨハネの黙示録 20 枚に記録されています。あらゆる時代の救援されられなかった者がこの審判台前に立つようになります。ところで永遠の刑罰と地獄の実在に対して、これを歪曲されて解釈する者がいます。彼らは死んだ後にまた機会があったりなど、刑罰が終わりがあるとか、魂が絶滅と主張します。しかし、聖書のどこにもそんな内容はありません。聖書に記録された通り、すべての人が行った通りに審判を受けるのです。そして白くて大きな補佐の前で審判を受けるすべての者たちが火の池に投げられることとなります。

第三に、審判する神様はまた、救援している神様です。神様が罪人を救援してために行われた事を知ると、神様の大きかった愛に感動せざるを得ません。犯罪したアダムを探して下さった神様が最初の福音を宣言しました。(創世記 3:15) この予言は、イエス・キリストの十字架受難と墓で復活し中心で歴史的に成就しました。神様は犯罪したアダムとハ

ワのために皮衣を負って着せました。(創世記 3:21)、このような事実にも福音的意味が含まれています。これは人間の罪を属するための旧約の贖罪の祭祀の原型であり、また、将来人類の罪を代わりに担当するイエス・キリストの贖罪的な死を類型した事件です。神様が罪人たちに要求されているのはただ信仰だけです。救世主イエス・キリストに対する信頼を要求しています。旧約時代の人々は将来、来られる救世主に対する口約束を信じることで救いを得るようになり、新約時代の人々は聖書通りに来られ、聖書通りに死んだし、聖書通りに復活したイエスキリストを信じることで救いを得るようになりました。

神様の審判がどのようなものであることを見れば、神様の救援を拒む人がないのです。しかし多くの人が神様の審判について、知らなかったり、聞いても信じなかったり、あるいは聞いて恐れても、他の欲望がさらに強く、これを抑制してしまふので救いを得ようとしません。聖書は“一度死ぬのは人にお決めたものであつて、その後には審判がいる。”(ヘブライ人への手紙 9:27)と警告しています。死も審判も必然的なものです。この恐ろしい審判を免れるためには、この世の中に生きている間、救援を得なければなりません。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

我は聖霊を信ず (1)



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

“我は聖霊を信ず”という告白は非常に簡潔で圧縮されたのです。この簡単明瞭した告白の中には途方もない真理と恵みが内包されています。しかし聖霊様が誰かが分からなければこの告白は内容ない告白に過ぎないです。今日は神様である聖霊様、聖霊様の属性、聖霊様に対する象徴、聖霊様の知性と感情と意志に関してよく見ます。

第一は、聖霊様は神様であるという事実をよく見ます。

聖霊様は三位一体の第3位で聖父と聖子と等しいです。使徒信條は確かに三位一体である神様を信じる告白をするようになっていきます。初の部分は“我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず”で、その次は“主は聖霊によりてやどり、処女(おとめ)マリヤより生れ、”であり、終わりは“我は聖霊を信ず”です。だから使徒信條を暗誦する時“私は神様である聖父、聖子、聖霊を信じます。”という告白をするのです。被造物が創造される以前に聖父、聖子、聖霊三位の神様がいらっしゃる三位の神様は等しい考えと御旨で協力するから真の御旨で三位は一体です。聖父は創造して聖子はあがないして聖霊は聖なるようにする仕事でその役目が著しく現われるがこのすべての事は聖三位の神様が一緒になさる仕事です。聖父は創造主です、しかし聖子と聖霊も創造に同参なさいました。聖子はあがないの主です、しかし聖父が聖子を送って聖霊に孕胎されて人の身を着ました。聖霊は聖潔するようになさる方です。しかし聖父と聖子もこの仕事と一緒になさいます。聖父の神様は聖子イエス様を知らせた(マタイによる福音書 3:17)、聖子イエス様は聖父(ヨハネによる福音書 5:19)と、聖霊様を知らせた(ヨハネによる福音書 14:16)聖霊様は聖子イエス様を知らせる事をなさいますヨハネによる福音書 15:26)、三位一体の教理は聖書に確かに啓示された教理です。ただ‘三位一体’という単語は聖書で捜してみる事ができません。この単語は神学的表現に創案されました。しかし太陽を太陽だと呼ぶ前に太陽が厳然に存在したように三位一体の神様に対する教理は聖書の中に啓示されていました。聖子と聖霊は作られなかったです。三位一体の中には初めも終わりもない大きい方も、小さな方ないです。永遠に一緒になさる三位は同等で一体です。旧約聖書に記録された神様の2大名称は‘エロヒム’と‘エホバ’です。ヘブライ文字でエロヒムは複数なのにヨホバは単数です。三位の神様は一りを啓示しています。このような神様の唯一性を‘複合的な唯一性’と申します。旧約聖書の民数記 6章にある三重の祝福とイザヤ 6章にある三重の讚尿も三位一体である神様を現わしています。“願わくは主があなたを祝福し、あなたを守られるように。願わくは主がみ顔をもってあなたを照し、あなたを恵まれるように。願わくは主がみ顔をあなたに向け、あなたに平安を賜われるように。”(民数記 6:24~26)、“互に呼びかわして言った。「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の主、その栄光は全地に満つ。」”(イザヤ書 6:3)、だから私たちは聖書に根拠して聖父、聖子、聖霊の三位を神様で、主で信じて仕えます。

二番目は、聖霊様の属性に関してよく見ます。

聖書には神様の属性が聖霊様に等しくあることを啓示しています。
第一、全知なさいます。
聖霊様はすべてのものが分かります。イエス様は“しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう。”(ヨハネによる福音書 14:26) おっしゃいました。
第二、全能なさいます。
聖霊様の全能なのは童貞女 処女(おとめ)マリヤより生れ、イエスキリストを懐妊させる仕事でよく現われています。天使がマリアの質問に対して答えるのを“御使が答えて言った、「聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおうでしょうそれゆえに、生れ出る子は聖なるものであり、神の子と、となえられるでしょう”(ルカによる福音書 1:35) しました。
第三、無所不在なさいます。
聖霊様はどの所でもいらっしやいます。ダビデは“わたしはどこへ行って、あなたのみたまを離れましょうか。わたしはどこへ行って、あなたのみ前をのがれましょうか。”(詩篇、139 :7)と言いました。
第四、永遠です。
聖霊様は始めもなくして終りもない永遠な方です。
五番目、真理です。
聖霊様は真理です。ヨハネの第一の手紙 5章 7節に記録されるのを“あかしをするものが、三つある”言いました。全知する、全能、無所不在する、永遠、真理などは皆が神様の属性です。聖霊様にこんな属性が等しくあります。

三番目は、聖霊様を形容する象徴に関してよく見ます。

第一、風で象徴しました。
イエス様は“風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞くが、それがどこからきて、どこへ行くかは知らない。霊から生れる者もみな、それと同じである。”(ヨハネによる福音書 3:8) おっしゃいました。
風が空気を新鮮に替えてくれるように聖霊様は私たちの生活と心霊の沈滞をとり除いて活気に満ちさせます。
第二、火で象徴しました。
洗礼ヨハネは言うのを自分は水で洗礼を与えるが、イエスキリストは“聖霊と火で”洗礼をくださると言いました(マタイによる福音書 3:11)。火は燃えて、エネルギーを発生させて物体を運動させます。聖霊様は罪悪になった考えを消滅させます。礼拝と奉仕と伝道する事を躍動的にできさせます。
第三、水で象徴しました。
聖書に“祭の終りの大事な日に、イエスは立って、叫んで言われた、「だれでもかわく者は、わたしのところにきて飲むがよい。わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その腹から生ける水が川となって流れ出るであろう」。これは、イエスを信じる人々が受けようとしていた御霊をさして言われたのである。すなわち、イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、御霊がまだ下っていないのである。”(ヨハネによる福音書 7:37~39) しました。水は肉体の喝きを解消させるが心霊の渴望は解決することができません。聖霊様は人の心霊に生水の川が流れるようになさいます。
第四、印で象徴しました。
使徒パウロはエペソ教会に送る手紙で“神の聖霊を悲しませてはいけない。あなたがたは、あがないの日のために、聖霊の証印を受けたのである。”(エペソ人への手紙、4:30) しました。文書に印を押して所有権を確証するように、聖霊様はイエスキリストを信じる者に印を押してイエスキリストの所有であることを確証なさいます。

五番目、油で象徴しました。
聖徒は聖霊様の油を注がれるによってイエスキリストにあって堅固になった(コリント人への第二の手紙 1:21)、聖霊様の油を注がれるによって神霊なことを分別してすべての事を正しく把握するようになります(ヨハネの第一の手紙 2:20、ヨハネの第一の手紙 2:27)。
六番目、剣で象徴しました。
エペソ人への手紙、6章によると悪魔を対敵するため“御霊の剣、すなわち、神の言を取りなさい”と言いました。聖霊様は聖徒が聖書のお話とそのお言葉に基盤した教訓を屈強につかんで進めばそれが聖霊の剣になって勝利の生を暮させます。
七番目、鳩で象徴しました。
イエス様がヨルダン川で洗礼を受けて水から上って来る時に天が開かれて聖霊が鳩のようにイエス様上に臨みました。聖霊が鳩のようにイエス様上に臨んだということは聖霊様の溫柔で謙遜な品性を現わしています。聖霊で充満すれば溫柔で謙遜になります。

四番目は、聖霊様の知性と感情と意志に関してよく見ます。

聖霊様は物質やすごい力や影響力ではないです。聖霊様は知性と感情と意志を持った神様です。
第一、聖霊様は知性を持ちました。
ローマ人への手紙、8章 27節を見ると“そして、人の心を探り知るかたは、御霊の思うところがなんであるかを知っておられる。なぜなら、御霊は、聖徒のために、神の御旨にかなうとりなしをして下さるからである。”と言いました。聖霊様は神様の御旨がすべて分かるからその御旨どおり聖徒のために祈ります。
第二、聖霊様は感情を持ちました。
聖書には聖霊様が感情を持ったという事実が多くの所に記録されています。“聖霊の愛”(ローマ人への手紙 15:30)というお言葉があります。“神様の聖霊を心配させるな”(エペソ人への手紙 4:30)、“御霊もまた同じように、弱いわたしたちを助けて下さる。なぜなら、わたしたちはどう祈ったらいかがわからないが、御霊みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからである。”(ローマ人への手紙 8:26) しました。‘愛’ ‘懸念’ ‘歎息’などは皆が感情に関わる用語であり、このような用語は聖霊様が感情を持ったことを確証してくれます。
第三、聖霊様は意志を持ちました。
コリント前で 12章には聖霊の賜物に関する記録で“すべてこれらのものは、一つの同じ御霊の働きであって、御霊は思いのままに、それらを各自に分け与えられるのである。”(コリント人への第一の手紙 12:11) しました。聖霊様が彼の意志どおり賜物を分けてやるという意味です。
その外にも聖霊様が知性、感情、意志として行ったことが聖書にたくさん記録されています。教え、証拠する、導き、おっしゃり、覚まし、命令する、送り、呼び、慰め、切に求めなどがあります。

今日は聖霊様に関してよく見ました。聖書に記録されたのです。聖霊様が教えてくれなければわからない貴重な知識です。聖徒の皆さんはこのように神霊で貴重な知識を持ったことによっていつも喜びながら感謝するように願います。そして希望と平安が一杯の中で生きて行くように願います。